



敦賀本部

【技術交流活動】 展示会 開催される

例年9月～11月は、様々な展示会に出展する機会に恵まれます。

今年も福井県内では丹南産業フェア2007や北陸技術交流テクノフェア2007、おこの産業フェア2007など、県外では金沢市でFITネット商談会、富山市で北陸ビジネス街道2007といった場でブースを出展でき、「もんじゅ」の開発意義や現状、成果展開事業の事例、技術交流の状況などを紹介しました。また、高崎量子応用研究所で行っている放射線照射技術の紹介や、人形峠環境技術センターが支援・協力したウランガラスも展示しました。これには多くの方が興味を引かれ、いろいろな対話をする事ができ、今後の技術展開活動を広げていく貴重なご意見や技術相談を多数いただきました。今後ともこのような場を利用し多くの方と交流を持たせていただきたいと思います。



ア一口メモ!

「ウランガラスとは・・・」
ガラス原料に微量のウランを混ぜたもので、ブラックライトをあてると、神秘的な黄緑色の蛍光を出すという特徴を持っています。きれいですよ～(^_^)



今回展示したワイングラス1個から出ている放射線の量は、人間の体内から出ている放射線量にほぼ等しく、日常、飲食に用いても問題はありません。

【技術相談】

ウメの果肉障害対策について(続報)

既刊でご案内のとおり、JA敦賀市等農業関係者より技術相談のあったウメの果肉障害について、今年度より、農業関係機関で検討会を設け、当機構の研究開発成果に基づき、『紫外線によりセルロースの重合(架橋)反応が促進され、その結果、保水能力の高い網目状セルロースが生成されるため』との仮説を立て、紫外線をカットする等の各種試験を行いながら、紫外線との関連性を確認するなど発生原因の解明と対策技術の開発に取り組んでおります。

障害果肉の風乾(7/13⇒10/2)



今日までの試験研究結果から、統計的には紫外線が多分に関与していると推測されますが、X線、赤外線、中性子等を用いた種々の分析技術をもってしてもセルロースの重合反応が進行して障害が起きているかどうか確認するまでには至っておりません。

従って、来年度も専門研究機関等のご協力を頂きながら、引き続き各種試験を実施し発生原因の解明と対策技術の開発に努めていく計画です。又併せて、現在、50%以上のウメが果肉障害のため商品価値が認められず廃棄処分されている現状を鑑み、食品・食材サイクルの観点、更には、ウメ栽培農家の収益向上の一助となればとの思いで、去る11月13日の検討会に於いて、障害果の有効活用を図るため障害果の回生実験(高付加価値化試験)にも積極的に取り組んで行くことを確認した次第です。

単離した「外ヤニ」の保水性



走査電子顕微鏡

